

「出題の意図」

選抜区分	2025 年度 （選抜区分：一般後期） 文学部人間関係学科 （科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	1. 出題の背景・求める能力 後期日程の試験科目である集団討論は、与えられた討論テーマに基づいた数人の受験生による討論形式の入試です。テーマを設定した討論場面において、自分自身の見解をテーマに沿って論理的・独創的に表現できる能力、情報提供や意見調整など円滑なコミュニケーションを進める能力、集団の中で適切なかたちでリーダーシップを発揮していける能力などが求められます。 2. 解説 今年度の集団討論は、1 試験室につき受験生 6～5 名を 1 グループとして 3 つの試験室で同時に進行し、それを 3 回繰り返す形で進めました。 同一時間帯で実施されるグループには共通の討論テーマが与えられ、時間帯が異なる場合には別のテーマが設定されます。 限られた時間のなかで、討論テーマに基づいて、それぞれの知識や情報、意見、疑問などを出し合いながら共有し、討論すべき論点を定め、集団で深めていくことが期待されます。 以下に各回のテーマごとに解説します。 【集団討論 1 回目】 解説：日本では、子どもへの SNS 利用についてどう考えるか、どんなルールにするといいかについて自由に討論してもらいました。 海外での子どもの SNS 規制の動向を紹介した文章を提示したので、海外の動向をどう理解するか、日本ではどう考えるかが前提になります。どう考えるかについては規制の有無（意見、根拠、理由など含む）、ルールについては本人、家庭、学校、法律（SNS 利用者か提供者か）など身近なテーマであるがゆえに、意見は持ちやすいが、どうしてその意見になるのか目を向けたり、意見として出ない視点を探ったり、同じような意見が確認されるため討論すべき論点を見つけ深めることの難しさもあります。 討論場面では、意見が出しやすいテーマであったため、活発に意見が出されるものの、同様の意見が羅列されていくことに時間を費やし、討論として深めていくことができなかったグループもありました。 また活発に意見が出されるため、テンポについていけるかどうかで発言量（・回数）に差が出る、テーマでは「子どもの」と絞っているが、SNS やネットの話題に広がっていく、基本的には規制に賛成で家庭内でルールづくりという意見が出されていました。

【集団討論 2 回目】

解説：「地域づくり」や「地域おさめ」という動向や考え方を紹介し、そうした取り組みの利点や問題点について意見を出し合い、これからの日本社会のあり方について自由に討論してもらいました。

出生数の減少や人口減少によって、地域は持続可能な地域であるのかどうか意識され、地方再生への取り組みが期待・注目される一方で、縮小や撤退に向けた取り組みを「地域おさめ」として取り組む考え方も求められ始めています。対極の動向と捉えたり、同様の動向と捉えたり、日本社会と地方・地域でとらえるなどが可能です。身近な地域やそこでの人間関係をどのように理解したり、支援したり、見通しを持つのかについて考えていく討論テーマになります。人間個人だけでなく、人間関係や生活について関心や問題を探っていくことが問われます。

討論場面では、活発に意見交換できるグループとなかなか意見や考えが出せないグループがありました。身近な問題としてとらえられるかで差がありました。「地域おこし」についてはイメージが持てない、「地域おさめ」ははじめて聞く受験生が多かったものの、意見を出し合いながら理解することが行われていました。意見がうまく出てこない場合は、討論する時間は減りますが、考える時間を設ける進行を行うグループもありました。

【集団討論 3 回目】

解説：どうすれば環境や社会に対する問題にもっと関心を持つことができるかについて自由に討論してもらいました。

有機フッ素化合物（PFAS）への海外と日本との対応の違いを例示しました。環境や食物連鎖を通じて人や動植物の生息・生育に影響を与える可能性が高く、危険性が指摘されている化合物があることも説明しました。日本でも対応が行われ始めていますが「知らない」ことが想定されるので「知らない」ということであればそれを出し合い、内外の対応の違いを探りながら、討論テーマ（関心を持たせるか）について考えていくことを求めました。「習ってないから知らない」や「習ってなくても知っていることもあるのに、こうした問題は関心も問題意識なかった」という点から考えていくことや、人間への関係を「食物連鎖を通じて」の紹介説明や、人間にとっての環境を「動植物の生息・生育」も含めて関心を持つことができるかなども討論の入り口になります。

討論場面では、PFASについて知らない、どうやって情報を知らせるかの意見交換が行われました。

➤ 受験生への情報提供

普段の生活や社会の動きの中から課題や問題点をみつけ、それを言葉にする練習や、集めた情報を整理する練習が集団討論に役立つと思いま

	す。また、それを友達や家族、先生と話し合ってみるのも良いと思います。自分の意見を持つこと、他者とやりとりすることで多様な視点を理解し獲得することや、問題の捉え方について考えを深めることができます。 知識や情報の有無や量よりも、限られた時間、与えられたテーマに即して、主体的・対話的で深い学びがなされるか、また人間関係を取り巻く事柄への探求や問題意識が発揮されるかどうか大切です。 テーマについて討論することを求めています。（特に指示されていない場合）時間内でグループとして結論を導き出すことは必ずしも求めています。また司会や進行を気にするあまり、おたがいに十分に意見を出し合う時間がとれないグループもあったりします。 進め方やまとめ方をあまり気にせず、それぞれの考えを出しあいながら自由に活発な討論ができればと思います。
--	--